緑が丘

校訓
「ゆたかさ・たしかさ・たくましさ」
学校教育目標
「認め合い、学び合い、高め合う生徒の育成」

平戸市立田平中学校
学校だより第１３号
（令和５年９月）
文責　　西澤　庄藏

2 学期の始業に当たり、「挑戦」「貢献」を意識した学校生活について訴えました。

9/1（金）始業式を行い、今学期に懸ける思いを伝達しました。8・9 登校日が実現しなかったため、約 40 日ぶりに生徒・教職員が一堂に会した集会になりました。

前半は、1 学期終業式式辞での夏休みを迎えるにあたってのお願い「目標を持って家庭生活を送る」「家の手伝いをする」について、（延期になりましたが）平和祈念集会での宣言に込められた思いについて、それぞれ説きました。後者の宣言については、身近な例えを引用して絶対にいじめや差別があってならないということも強く訴えました。一人一人が個人を尊重し、他人に対して「思い」を巡らせ、行動に移す「思いやり」の大切さを説きました。

後半は、本論として、「挑戦」「貢献」をキーワードに 2 学期に懸ける思いを語りました。今学期は文化祭・合唱コンクール、職場体験学習など学校・学年行事が多いがゆえに「大舞台で堂々とした態度で表現してほしい」と率直な思いを伝えました。そのため、「挑戦」という言葉を胸に、一歩を踏み出す力（行動）が自己の成長につながることを説きました。ただ、「言うは易く行うは難し」で、現実は厳しいことが想定されます。が、生徒全員が実践すれば、当たり前の活動になり、行動が安易になります。その際、学級・学年、学校、地域のため、互いに協働する「貢献」という言葉を胸に、行動してほしいことも付け加えました。「挑戦すること」「貢献すること」の意義を唱えたのは、行事の日だけではなく日常生活でも意識し、充実した学校生活を送ってほしいからです。また、「アフターコロナ」の心がけとして、自発的なあいさつなど、声に出す活動も意識し、良き伝統を「今日ここから」つくり、生徒会年間スローガンとして掲げている「百花繚乱」にもつなげたいとの決意も伝えました。

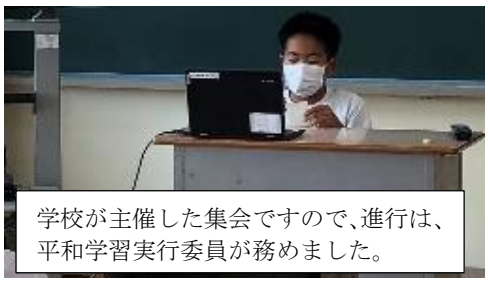
被爆体験者のお話を聴く集会がありました。恒久平和を誓う厳粛なひとときでした。

8/9（水）平和祈念集会は、台風接近のため、登校日とならず、今週 9/8（金）に持ち越しとなりました。次回、この集会の様子はお伝えする予定です。

今回は（ほんの一端ですが）関係した平和学習の様子をお伝えします。7/12（水）平和学習の一つとして「被爆体験者講話」と称した集会を実施しました。語り部としてご活躍されている長崎市の講師（山川様）とオンラインで結び、リモート集会の形式で行いました。この集会は、戦後 78 年を経過し、被爆体験者が高齢化している中、当時を知る方々から直接お話を聞くことにより、被爆の悲惨さ、平和の尊さの理解をいっそう深めることを目的に実施しました。

講師の山川先生は、小学校、高等学校で教職の道を全うされ、特に高等学校では「長崎平和学」という特設の授業を担当するなど、平和教育に尽力された経歴の持ち主です。講義の大半は、自身の小学 3 年時の市内・浪の平町で被爆した様子を切々と語ることに費やされました。その臨場感あふれる語りに、私も、終始、聞き入ってしまいました。

お話のあと、しばし静まり返った学校の雰囲気が、恒久平和を願うひとときになったことを物語っていました。次は私たちが学んだことを発信する番です。恒久平和を願い、守ることはもちろん、語り継いでいくことの大切さも学びました。


学校が主催した集会ですので、進行は、平和学習実行委員が務めました。

同じ 7 月は、3 年生が修学旅行で筑前町立大刀洗平和記念館を訪れ、平和学習の一つとしての「特攻」の歴史を、語り部や展示物を通して学びました。このように繰り返しの学びが今後も続きます。